

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02609

研究課題名(和文) 地域支援事業の適用に向けたストレス対処力SOCの社会・認知・神経基盤の解明

研究課題名(英文) Elucidation of social, cognitive and neural basis of sense of coherence for application of community support projects

研究代表者

坂野 純子 (Sakano, Junko)

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：70321677

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,100,000円

研究成果の概要(和文)：地域支援事業に適用可能な高齢者を対象とした介入プログラム開発とその効果測定へ向けたSOCの応用可能性を検証すべく、種々の課題に取り組んだ。その結果、SOCが高齢期のポジティブ/ネガティブな精神的健康を有意に促進/低減すること、社会関係資源がSOCを媒介にポジティブ/ネガティブな精神的健康を説明すること、SOCが生理心理学的ストレス反応に対して緩衝効果を示すことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、SOCは30代まで発達し高齢期に至るまで安定しているとされていたが、近年、介入研究により高齢期でもSOCが発達する可能性が示唆されている。本研究により、高齢者を対象にSOCあるいは社会関係資源への介入により、高齢期のポジティブな精神的健康の促進、あるいはネガティブな精神的健康の低減を示唆する知見を明らかにできたことから、元気高齢者の介護予防・健康増進を目的とする「生き生きしている・活力のある」といった実存レベルの状態に働きかけるための介入プログラム開発のための示唆を得られたものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Various issues were addressed to verify the applicability of SOC to develop intervention programs for elderly people that can be applied to community support projects and to measure their effects.

As a result, we found that SOC significantly promoted/reduced positive/negative mental health in old age, that social relational resources accounted for positive/negative mental health through SOC, and that SOC reduced psychophysiological reactivity (stress-buffering effect against stress responses).

研究分野：健康社会学

キーワード：SOC 高齢者 社会関係資源 遂行機能 急性ストレス反応 Social provision

### 1. 研究開始当初の背景

少子高齢化の中で、現行の元気高齢者が特定高齢者にならないように予防することを狙いとす、科学的根拠に基づいた介入プログラムの開発と効果測定(評価)の重要性が増大している。とりわけ、世界保健機関(WHO)のヘルスプロモーション憲章で指摘されているように、健康増進のためには身体および精神(認知機能)、社会的な健康状態の次元に加えて、「生き生きしている」、「活力のある」といった実存レベルの状態に働きかけることが重要であり、これからの元気高齢者の介護予防・健康増進を目的とする活動プログラムには、まさに高齢者の「実存レベル 生き生きしている状態」をきちんと評価し、健康状態および Quality of Life (QOL) を促進することが求められている。

健康社会学者 Antonovsky, A によれば、Sense of Coherence (SOC) とは、後天的に形成される自分自身の生活世界に対して首尾一貫している、筋道が通っている、腑に落ちるといった捉え方・向きあい方の感覚であり、そのような感覚を有しているという確信・認知的傾向でもある。当該概念はトラウマティックな出来事を経験しても、その後の心身の健康を保持できている人達に着眼し、その共通点として見出された。今日では人生においてストレスは遍く存在するものと捉え、WHOのヘルスプロモーションの哲学的基礎とされている健康生成論における健康要因の中核概念(ストレス対処力)として、SOCは医療分野のみならず福祉を包含するヒューマンケアサービス分野において広く活用されている。また、ソーシャルワーク領域におけるクライアントの本来有する能力や強さ(望み・可能性・活力・知恵)に焦点を当てる「ストレングスモデル」や、精神障害を呈する人たちがそれぞれの自己実現や自分が求める生き方を主体的に追求するプロセスを示す「リカバリー」、そして、教育現場で重要視されている「生きる力」とも重なり、まさに、SOCは現代社会における人間の生活上の実存レベルの程度を評価している概念に他ならない。

### 2. 研究の目的

本研究は、地域支援事業に適用可能な高齢者を対象とした介入プログラム開発とその効果測定へ向けたSOCの応用可能性を検証することを最終目標(目的)に、課題①我々が開発したSOC短縮版尺度(13項目5件法)が高齢期の精神的健康やQOLを含むWell-beingを予測できるか否かを明らかにすること、課題②高齢者のみならず若年者を対象にSOCを醸成・促進するための人生経験または心理社会的資源は何かを明らかにすること、課題③SOCが生理心理学的ストレス反応へ与える緩衝効果の認知・神経基盤の詳細を明らかにすること、課題④実際の地域の高齢者を対象に介入群とコントロール群を設定しランダム化比較試験を実施した上で、高齢者におけるSOCの介入効果を明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

課題①：地域在住の高齢者を対象に質問紙調査を実施し、SOCとWell-beingの関連性を重回帰分析により検討した。

課題②：地域在住の高齢者を対象に質問紙調査を実施し、どのような社会関係資源がSOCあるいはwell-beingを促進するかを媒介効果分析により検討した。

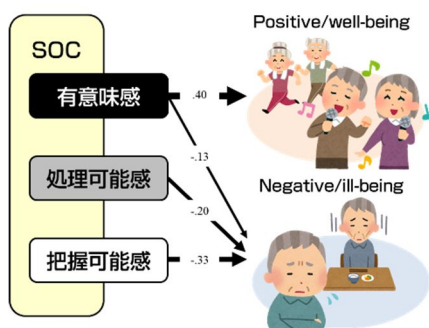
課題③：高齢者と若年者(大学生・大学院生)を対象に、急性ストレス課題(修正 Trier Social Stress Test: TSST)時の生理心理学的ストレス反応を測定し、ストレス反応に対するSOCの緩衝効果および認知機能との関連を検討した。

課題④：これまでの先行研究や海外の研究者の意見を参考に、介入プログラムを試案し、その効果をランダム比較試験で検討する予定であった。

### 4. 研究成果

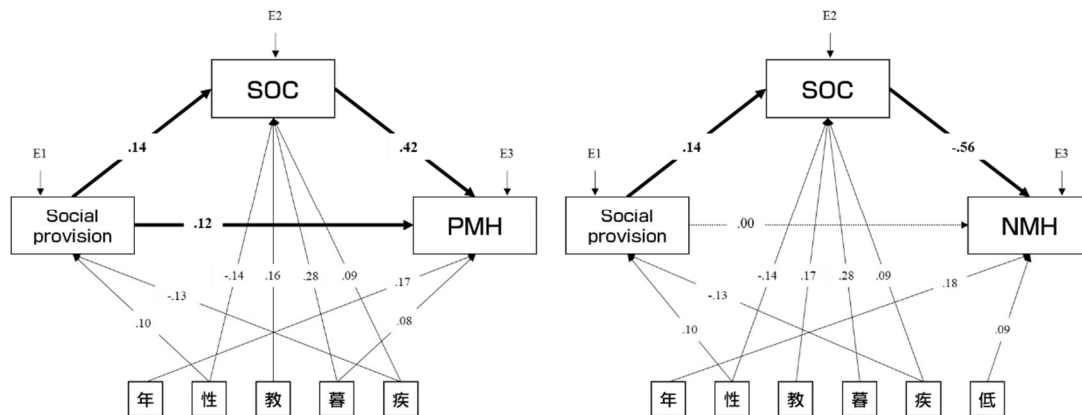
本研究の成果は以下の通りであった。

課題①の成果：



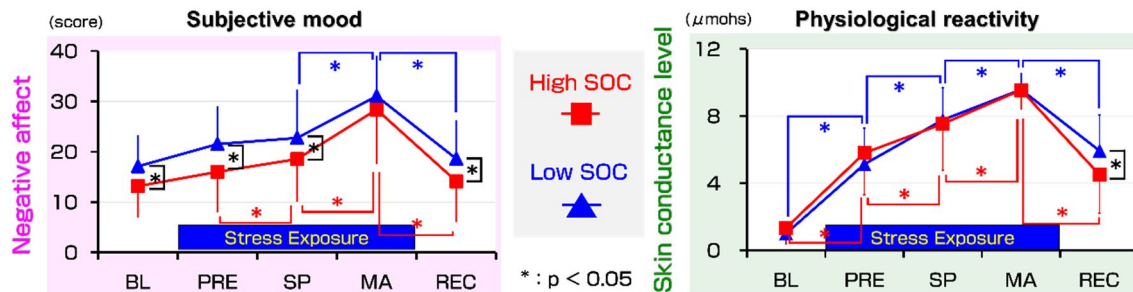
SOCは「把握可能感」、「処理可能感」、「有意味感」の3つの下位因子から構成されている。SOC合計得点および3つの下位因子すべてが、ネガティブな精神的健康(ill-being)を有意に低下させた一方で、SOC合計点および3つの下位概念の中で有意味感のみが、ポジティブな精神的健康(well-being)を有意に促進させたことを明らかにした。これまで3つの下位因子は相関が高く、1つの概念(SOC合計得点)としてとらえることが妥当とされてきたが、本研究からSOCの各下位概念の機能の特徴を明らかにすることができた。

課題②の成果：



社会関係資源の中でも、受領と提供の両ソーシャルサポート (Social Provisions Scale : SPS) に着目して、ポジティブおよびネガティブな精神的健康に対して直接的に影響を与えるか、または、SOC を媒介にして間接的に影響を与えるかを、媒介効果分析により検討した。その結果、ポジティブな精神的健康は直接的および間接的に有意な影響を与えていた。しかし、ネガティブな精神的健康に対しては、SPS は直接的に有意に影響を与えず、SOC を媒介してのみ有意に影響を与えることを明らかにすることができた。特に、前者のモデルにおいて、提供的サポートに類するソーシャルサポートが、SOC 並びに高齢者の well-being を高めることが示唆された。

課題③の成果：



急性ストレス課題時のネガティブ感情および精神性発汗を評価した。その結果、ネガティブ感情において、SOC 高群は低群よりも課題時の反応が有意に低かった。また、精神性発汗においては、ストレス暴露時からの回復が SOC 高群の方が低群に比して速かった。SOC の緩衝効果は、主に脳の前頭葉が担う遂行機能 (特に抑制機能) の働きと関連していたことから、SOC の神経基盤について間接的に明らかにすることができた。

課題④の成果：

新型コロナウイルス感染の蔓延により、介入研究は途中で頓挫したため成果はなし。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大方久・澤田陽一・矢嶋裕樹・矢庭さゆり・坂野純子	4. 巻 25
2. 論文標題 地域高齢者を対象としたSocial Provisions Scale (SPS) 短縮化の試みー項目反応理論分析による検討ー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡山県立大学保健福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15009/00002270	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大片久・澤田 陽一・大形篤・矢嶋裕樹・坂野純子	4. 巻 43(3)
2. 論文標題 ポジティブな精神的健康をとらえる日本語版Mental Health Continuum Short Form (MHC-SF-J) の高齢者における妥当性と信頼性の検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 262-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34393/rousha.43.3_262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大片久・澤田陽一・大形篤・矢嶋裕樹・坂野純子	4. 巻 69(4)
2. 論文標題 Sense of coherence (SOC) における有意味感は高齢者のMental well-beingを促進する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 厚生指標	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大形篤・澤田陽一・大片久・矢嶋裕樹・坂野純子	4. 巻 28
2. 論文標題 高齢期の健康的な食関連習慣尺度の妥当性と信頼性の検証 健康生成論に基づくアプローチ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山県立大学保健福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15009/00002398	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Sakano J, Sawada Y, Okata H, Yajima Y
2. 発表標題 Sense of coherence as a mediator between social support and mental well-being among Japanese elderly people.
3. 学会等名 ISOQOL 29th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakano J, Okata H, Sawada Y, Yajima Y
2. 発表標題 Higher meaningfulness of sense of coherence (SOC) is associated with better mental well-being of the elderly people
3. 学会等名 ISOQOL 28th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sakano J, Ogata A, Sawada Y, Yajima Y.
2. 発表標題 Salutogenic factors of healthy eating habits in Japanese elderly people: a structural equation modelling approach.
3. 学会等名 ISOQOL 27th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Junko Sakano, Hisashi Okata, Yoichi Sawada, Yuki Yajima, Sayuri Yaniwa
2. 発表標題 Development of a short version of Social Provisions Scale for community-dwelling elderly individuals: an item response theory approach.
3. 学会等名 ISOQOL 26th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Sakano, Yoichi Sawada, Yuki Yajima, Atsushi Ueda
2. 発表標題 Does Sense of Coherence buffer acute mental stress in older people?
3. 学会等名 The ISOQOL 25th annual conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junko Sakano, Yoichi Sawada, Yuki Yajima, Hisashi Okata, Atsushi Ueda, Rina Yoneyama
2. 発表標題 Relationship between sense of coherence and psycho-physiological reactivity to acute mental stress.
3. 学会等名 ISOQOL2017 24th Annual conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢嶋 裕樹  (Yajima Yuki)  (00550469)	新見公立大学・健康科学部・准教授(移行)   (25302)	統計支援
研究分担者	澤田 陽一  (Sawada Yoichi)  (50584265)	岡山県立大学・保健福祉学部・助教   (25301)	実験実施
研究分担者	山崎 喜比古  (Yamazaki Yoshihiko)  (10174666)	日本福祉大学・社会福祉学部・教授   (33918)	研究全般に対する助言

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------